

みなみ

南区人権尊重啓発連絡会議だより



区の広報担当キャラクターのため蔵

広報紙みなみのこと知ってる？

地域社会や家庭生活の中で人権意識を高め、人権が尊重される明るいまちづくりをめざし、南区の人権尊重団体の連合体が、毎年3月に発行しています。

事務局

福岡市南区
生涯学習推進課

TEL:559-5172
FAX:562-3824

報告

南区人権を考えるつどい

令和5年10月5日(木)
南市民センター文化ホール

191人参加

「寝た子」はネットで起こされる！ ネット人権侵害と部落差別の現実



講師
(一社)山口県人権啓発センター事務局長
川口 泰司 さん

寝た子のままならいつか差別はなくなるどころか、ネット社会ではさらに差別を助長します。悪意がなくても加害者になりえます。実例を通じ、今私たちができることが提案されました。

無知、無理解、無関心が 無自覚な差別につながる

差別は悪い人がするとは限らず、自分の言動が無意識に相手を傷つけているかもしれません。差別は見ようとしないと見えません。誰の中にも差別の芽、容認の芽があって、SNSなどによって育てられます。

深刻なインターネット差別事例

恐怖をあおる部落探訪動画と興味本位で閲覧する若者。地名総鑑のネット販売者が佐賀の高校生だった事実。熊本地震で被災者の避難を妨げたネット上のフェイクニュースなどデマ拡散。日々多く流れるこれら実例は、部落差別以外でもすべてつながっていきまます。無自覚に加害者とならないよう、正しい知識を学ぶこと、さらに時代に合わせた人権基準のアップデート

が必要で。事実に基づく正しい判断と行動のために、自分自身にも子ども家族や友だちにも確認しよう。
「それって本当?」「誰が言ったの?」

「差別をしない」から 「差別を許さない」へ

自宅に届いた差別脅迫の年賀状。小学生の娘が見つけた痛恨と恐怖から、話は差別解消の動きへと展開します。娘が高校でそのことを発表し、クラスみんなが応援してくれたこと。マジョリテイ特権を生かして、勇気をもって反差別のロールモデルをネット拡散する運動。コロナ感染したサッカー部寮生たちを差別するのではなく応援の先頭に立った本田圭佑選手のように。差別をしないだけでなく、差別を許さない価値観を社会が持ち続け、受け継いでいこう。最初に声を上げるファーストペンギンでなくても「私もそう思う」と続いて声をあげてはどうでしょう。

ファーストペンギンに続け!



ネット人権侵害と部落問題をもう少し学びたい人へ

川口泰司著
福岡県人権研究所
2023年発行

報告

第52回 福岡市人権尊重週間(12月4~10日)
人権を尊重する市民の集い(南区)

令和5年12月8日(金)
南市民センター文化ホール

198人参加
124回視聴

ゲイの僕が伝えたいLGBTQのじやないのではないではなく、言えない社会



講師
ユーチューバー
かずえちゃん

周りと違うことを 隠してきたが

周りの男の子と何か違う自分を意識したのは小学5年生。いつも目で追っているのは男の子でした。テレビ番組の「ホモ」をクラス中で笑って、気持ち悪いと言いのを聞くうち「自分の感情が間違っている、隠さないと」と思いました。高校では女の子とも付き合ってみました。24歳のとき同性のパートナーのことで嘘をつきたくないと思い、両親に伝えました。社会の長男像と違う僕は「ごめんさい」を繰り返して、うなずきながら聞く父と泣きじゃくる母。「お前が幸福ならそれでいい」と言ってくれた父でした。

母と二人で温泉へ

カミングアウトしたとき母親が泣いた理由を聞きました。それは息子がゲイなのが悲しかったのではなく、5年生の頃からずっと誰にも話せず一人で背負ってきたこと、24歳になるまで親も気付かなかったことがつらくて泣いたのでそうです。対話をするこの大切さを思い知りました。

だれもが自分らしく 生きる社会へ

ゲイであることが悪いと自分に矛先を向けて痛みを飲み込んでいたけど、一人一人が社会の一員。外国人や障がい者など属性で平等に扱ってもらえないのは社会側の責任ではないでしょうか。当事者になれなくても、自分がこう言われたらどうだろうかと想像し、考えることが、社会をちよつとずつ変えていくこの思いを発信しています。

カナダに留学



この国では自分を隠さず新たな人間関係を作ろうと決めました。カミングアウトは怖かったけど、周りのみんなは「あ、そうなんだ」と普通に接してくれました。自分らしく生きるってすごく楽、同性婚も法制化されていて、選択肢があるって大切だと思いました。

あなたのSOGI(ソジ・ソギ)は

講演の中で、一人ひとりが持っている大切なものとして紹介されました。性的マイノリティの方も、そうでない方も誰もがSOGIという、多様なグラデーションの中を生きています。

- Sexual Orientation
セクシュアル オリエンテーション
性的指向(好きになる性)
- Gender Identity
ジェンダー アイデンティティー
性自認(自分が思う性)

(福岡市発行 LGBT基礎知識より)

福岡市人権尊重週間 南区入選作品(小・中学生)

福岡市ポスター代表作

声かけて つながれ 広がれ 笑顔の輪

認めあう すてきな個性 大切に

大丈夫 君の居場所は ココにある

あたりまえ 人によつては ちがうかも



	南区入選作品	全市入選作品	全市応募作品
ポスター	★ 7	33	5,439
標語	★ 4	22	12,547



地域活動の紹介 老司校区

老司校区では、子どもたちの登下校時に毎日「ちょぼら隊」が通学路に出て、安全安心を守るための活動を20年間続けています。

きっかけは2003(平成15)年、老司小学校の子どもが登校中、ガソリンをかけられ火を付けられて全身やけどを負った通り魔事件でした。



今日もグータッチで「おはようございます！」

当時の柴藤会長(まちづくり老司協議会)や竹内会長(人権尊重推進協議会)等の呼びかけで有志が集まり、見守り隊が結成されました。

「ちょぼら隊」とは、ちょこっとボランティア隊の略で、子どもの安全を守ろうという気持ちのある人はだれでも参加できます。今では隊員数100人を超えました。

今年度は、事件から20年の節目。今日も隊員と子どもたちが交わす挨拶の声がたくさん聞こえています。



始業式・終業式の日には旗を掲げて、より多くの見守り呼びかけます

ありがとうございます アンケートの声

☆障がい個性と捉え地域の人に伝える大事さを改めて感じられた。主体が誰なのか見失わないようにしていきたい (20代)

☆会場での参加ができないので、オンライン配信でお話が聞けて良かったです (40代)

☆外国人の方が声掛けしてほしいと願っていると知り、これから機会があれば進んで挨拶や声をかけたい、と思いました (70代)

☆4回ともとても良い内容、それだけに来場者が少ないのが残念です。土日にも開催しては (50代)

☆大事なのは、正しい知識、他人事ではない、自分に自覚のない偏見はないか (60代)

☆対談形式はとても話が分かりやすかったです (50代)

☆コロナの中オンライン講座が続いてたので実際に講演に参加でき、「生」は思いがより伝わると感じました (60代)

☆とても刺激になりました。学校でも子どもたちと一緒にわくわくできる仕組み、過程をつくっていききたい (30代)

3月1日

皆さんの声を改善と励みに、これからも心に届き行動につながる事業を提供します。



報告 令和5年度 南区人権講座

1 令和5年6月7日(水)
人権新時代 — 記者28歳 私は部落から逃げてきた

西田 昌矢 さん
(西日本新聞記者 朝倉支局長)
中原 興平 さん
(西日本新聞クロスメディア報道部 デスク・記者)



2 令和5年6月14日(水)
障がい者アートが彩る豊かな地域社会

原田 啓之 さん
(障がい福祉サービス事業所 PICFA(ピクファ)施設長)



3 令和5年6月22日(木)
いのちをいただく 子どもに伝えるいのちの尊厳

坂本 義喜 さん
(絵本原作者)

絵本 いのちをいただく 講談社発行
原案 坂本義喜 作 内田美智子
絵 魚戸おさむとゆかいななままたち



4 令和5年9月5日(火)
わたしの町の外国人の幸せ ~教えて! 私にできること~

ダルマ・ラージュ・アディカリ さん
(南区在住ネパール人 アジア日本語学院ディレクター)



シュリステイ・ケ・シ さん
(福岡市在住ネパール人 飲食店経営)



田中 顕治 さん
(福岡市総務企画局国際政策課)